

## 【 第53回熊本大学定例学長記者懇談会 】

日 時：令和8年2月4日（水）10：00～11：00（予定）

場 所：本部棟1階 大会議室

本学出席者：熊本大学長 小川 久雄

理事（研究・グローバル戦略、产学連携担当） 大谷 順

理事（広報・ブランディング・行政連携担当） 宮尾 千加子

内 容：

1. 名誉フェローの称号授与について（資料1）  
公益財団法人永青文庫 理事長 細川 譲光 様

2. 核小体恒常性の異常が引き起こす「炎症プライミング」の意義（資料2）  
大学院生命科学研究部 助教 高島 謙

3. JSTの新規ASPIREプロジェクトの紹介（資料3）  
大学院先端科学研究部 教授 澤 進一郎

4. その他



## 国立大学法人熊本大学名誉フェロー称号授与者

○ 被授与者 細川 護光（ほそかわ もりみつ） 氏

○ 現職等

- ・陶芸家
- ・公益財団法人永青文庫理事長（2023（令和5）年6月～）
- ・出水神社 宮司（2023（令和5）年12月～）

○ 業績

- ・伊賀「土楽窯」にて福森雅武氏に師事。
- ・その後、湯河原にある父・細川護熙氏の不東庵を経て2006（平成18）年、熊本で開窯する。
- ・信楽・唐津・高麗・楽焼などを手がけ、日本橋高島屋、日本橋三越、新宿柿傳などで個展を開催。

○ 授与理由（※適用条項：規則第3条第4号）

- ・細川護光氏は、公益財団法人永青文庫の理事長として、本学附属図書館に歴史資料や古典籍約5万7千点を寄託し、日本史学、国文学の研究と教育の発展の条件を本学に提供するとともに、本学永青文庫研究センターの活動の意義を深く理解して惜しみないサポートを継続している。
- ・また、陶芸家としての精力的な活動とともに、近年は出水神社宮司としても、各種の講演等を通じて本学の存在感の向上に貢献されている。今後、永青文庫研究センターと協力し、永青文庫の貴重資料によって日本の歴史文化を世界に紹介する活動を展開する予定もある。
- ・このように細川氏の活動は、本学の活動と社会的認知の向上に大いに資するものであることから、名誉フェローの称号を授与するものである。

※ 国立大学法人熊本大学名誉フェロー称号授与規則（抜粋）

（称号授与の資格）

第3条 名誉フェローの称号は、次の各号のいずれかに該当する者に授与することができる。

- （1） 本学の運営及び経営に顕著な貢献があった者
- （2） 本学に在学した者又は勤務した者のうち、政治、経済、芸術、文化、スポーツ等の各界において顕著な功績があった者
- （3） 特に優れた業績により国内外で高い評価を受け、本学において顕彰することが適當と認められる者
- （4） その他学長が適當と認める者

## 熊本大学キャンパスミュージアムへの招待⑥

## 永青文庫研究センター

熊本大学永青文庫研究センターは、永青文庫資料等の総合的研究に立脚した拠点的研究の組織、文化行政機関等との連携による地域文化振興への貢献、人文社会科学系分野を中心とした研究及び文化振興の発展に寄与する人材育成に資することを目的とした施設である。二〇〇九（平成二十一）年四月、熊本大学文学部を中心とした永青文庫資料研究の一定の蓄積を前提に、公益財団法人永青文庫や熊本県教育庁の要請を受けて設置された。現在は、概算要求機能強化促進分プロジェクト経費、科学研究費補助金、肥後銀行が出捐している熊本県永青文庫常設展示振興基金等をもとに運営されている。当初の八年間は文学部附属であったが、熊本大学の特色ある重鎮領域として、その研究・社会貢献事業の一層の拡充がはかられることとなり、二〇一七（平成二十九）年四月に学内共同教育研究施設へと改組された。

本センターの活動は、おおよそ次の三点にまとめることができる。

第一に研究活動である。近世大名細川家に伝来し、公益財団法人永青文庫が所有する「永青文庫細川家資料」の細目録作成事業のほか、細川家第一家老の松井家に伝来し、熊本大学が所蔵する「松井家文書」、熊本藩の惣庄屋を歴任した古閑家に伝来し、熊本大学が管理する「古閑家文書」などの目録作成事業を進めている。そこで得られた知見は、永青文庫資料等から学術的価値が高い古文書類を図版入りで刊行した資料集『永青文庫叢書』全一〇冊やセンタースタッフによる研究、後述する地域・社会貢献事業等に反映されている。また、学内外の研究者とともに、右の熊本藩関係資料群を素材とした共同研究を継続的に進めしており、日本近世史研究の全国的な拠点の一つとなっている。

第二に教育活動である。上記の目録作成事

業等に学部生や大学院生を参加させることによつて、歴史資料学の専門性と実践力を身に付けた人材の養成を目指している。本センターの事業に従事した卒業生・修了生の多くは、現在、日本中・近世史の若手研究者や文化財行政担当者として全国各地で活躍している。

第三に、地域・社会貢献事業である。熊本大学附属図書館と連携した貴重資料展、永青文庫セミナーを毎年秋に開催するとともに、永青文庫をはじめ、熊本県立美術館・八代市立博物館未来の森ミュージアム等、県内外の博物館・美術館と連携した展覧会や講演会等も頻繁に行っている。マスコミを通じた研究成果の普及にも積極的に取り組んでおり、とくに稻葉継陽センター長は、テレビ出演や地元紙「熊本日日新聞」への寄稿や連載を通じて、本センターの基礎研究の成果を随時発信している。

熊本大学永青文庫研究センター准教授 今村直樹



永青文庫研究センター外観



第16回永青文庫セミナーで講演する稻葉継陽センター長  
(2022年11月)

# 核小体恒常性の異常が引き起こす 「炎症プライミング」の意義

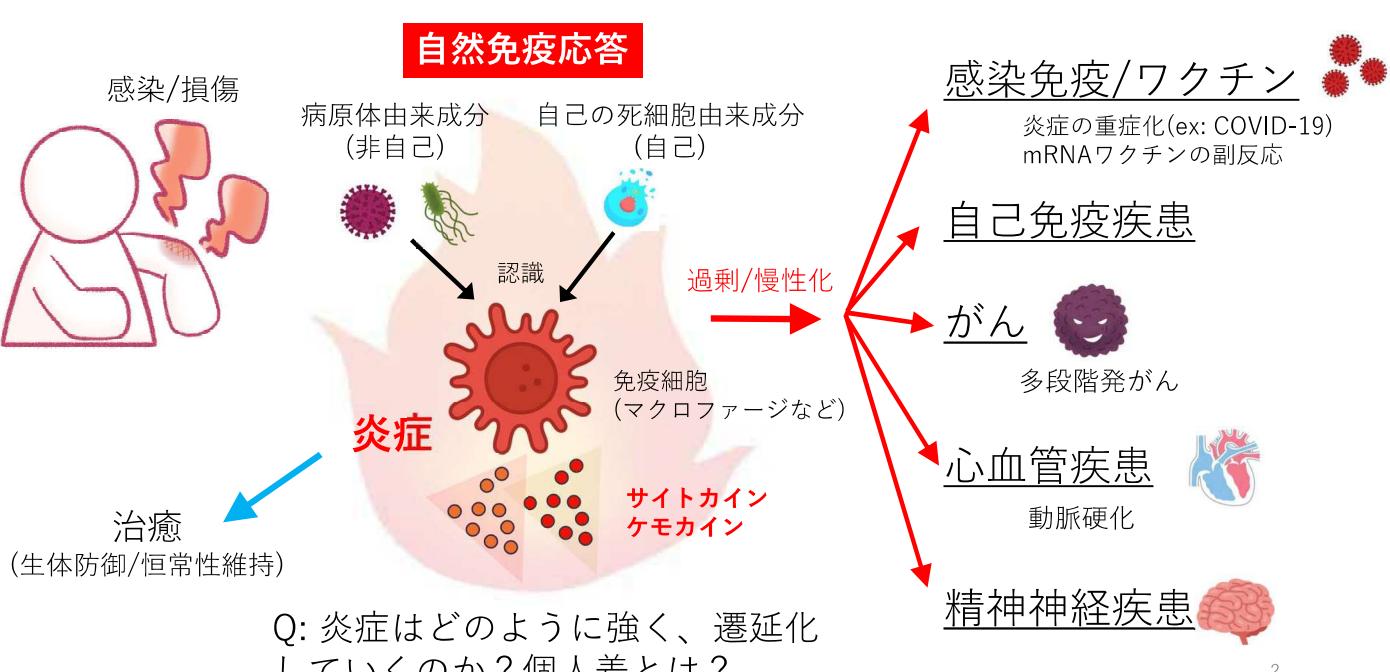
熊本大学大学院 生命科学研究部 免疫学講座  
JST創発研究者(5期: 有田パネル)  
高島 謙



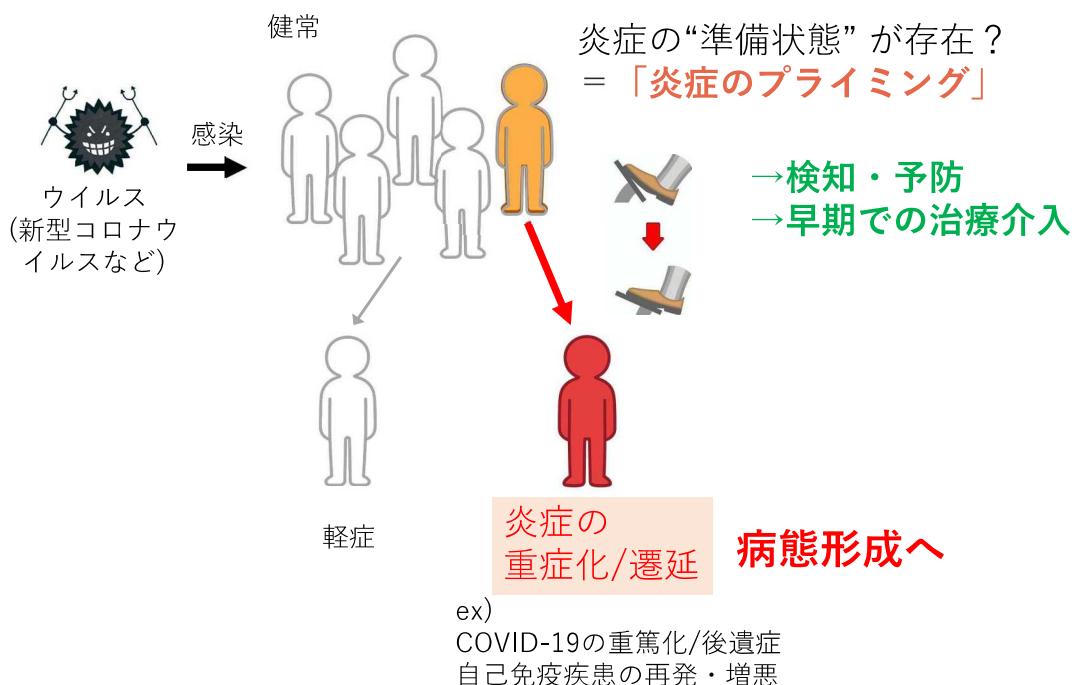
創発的研究支援事業  
Fusion Oriented Research for disruptive Science and Technology

1

## 炎症はあらゆる疾患の下地となる

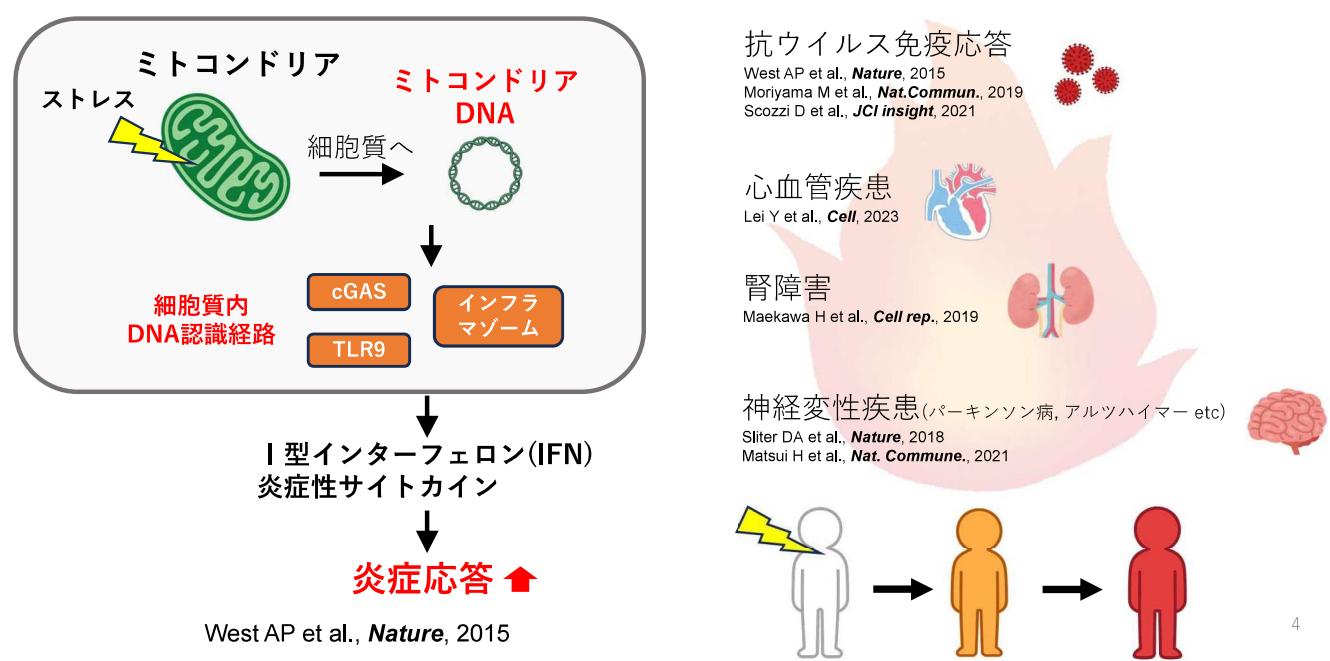


## 「炎症の”準備段階”」があるのではないか？



3

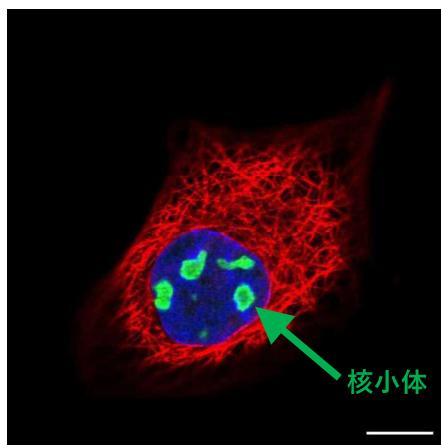
## これまで：細胞小器官のストレスが炎症を増強させ、様々な疾患の病態形成に寄与する



4

# 我々の着眼：細胞のストレスセンサー核小体に着目

## 核小体とは？

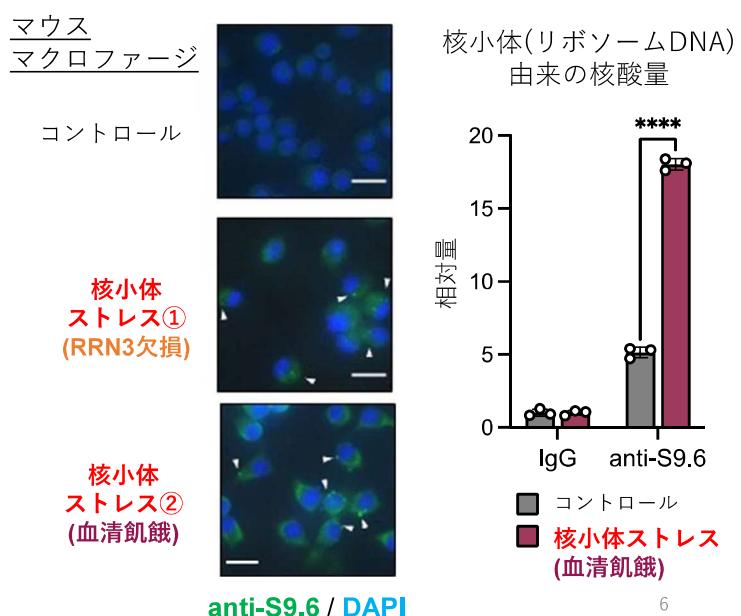
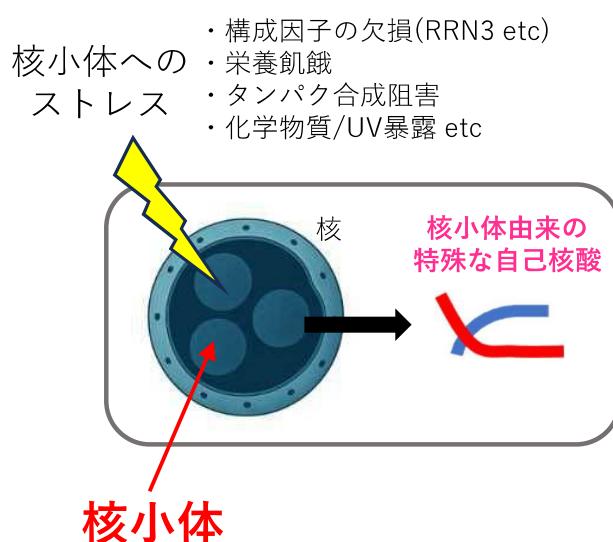


Human protein atlasより

- ・核の中に3-5個存在する小さな構造体
- ・タンパク合成を担うリボソームを作る（リボソームRNAの合成）
- ・細胞の全エネルギーの80%を消費
- ・がん細胞で顕著に大きくなる
- ・外界の変化(栄養、UV、化学物質など)に反応して、形態や機能が変化する  
→細胞のストレスセンサーの一つ

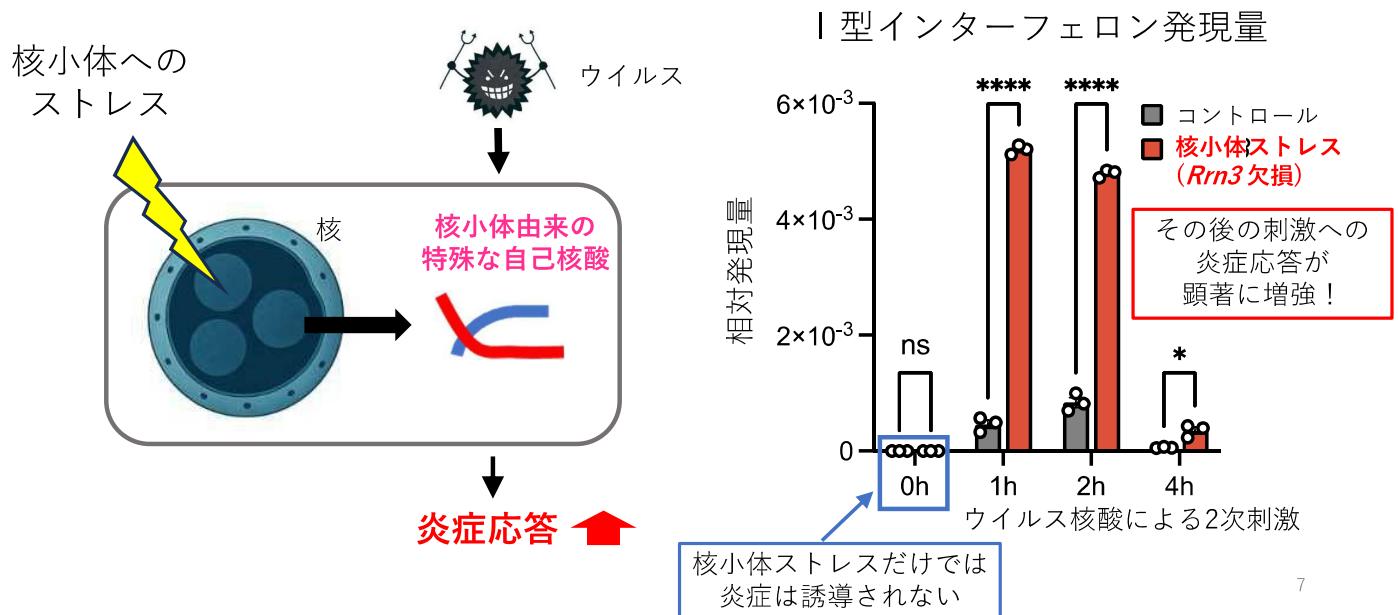
5

## 我々の発見①：核小体ストレス下では核小体に由来する特殊な自己核酸が生成される

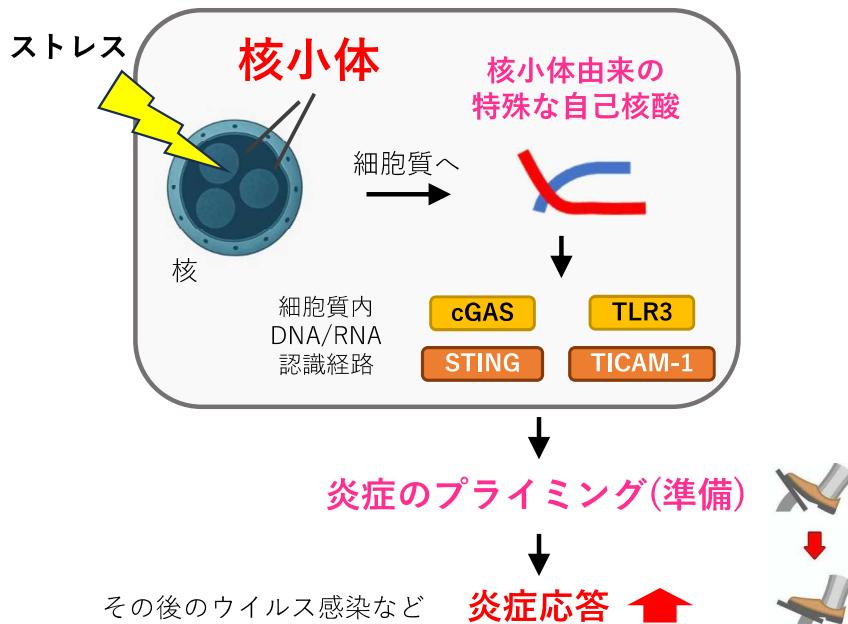


6

## 我々の発見②：核小体ストレス自体は炎症を誘導しないが、「その後の」炎症応答を顕著に増強する



核小体の異常によって異常な自己核酸が産生され、その後の炎症を増強する「潜在的な炎症」が形成される



### 1. リボソーム病(遺伝病)

- Diamond-Blackfan貧血
- 5q-症候群

### 2. がん

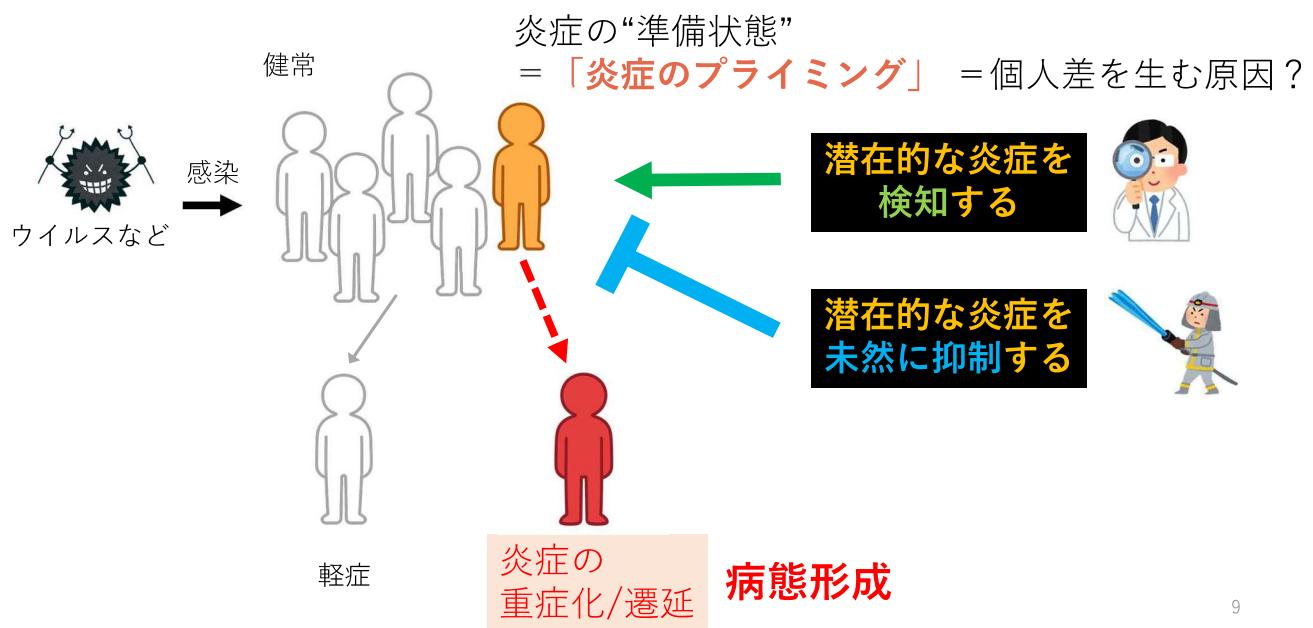
- 腫瘍隨伴性炎症
- Hot tumor と Cold tumor

### 3. mRNA-LNPワクチン

- アジュバント効果
- 副反応

Takashima K et al.,  
論文投稿中

# 核小体を起点とした「潜在的な炎症」を検知し、治療する新技術の開発へ







**ASPIRE (JST;科学技術振興機構)**

**-先端国際共同研究推進事業-  
「TOPのためのASPIRE」  
採択のご報告**

**線虫を含む土壤微生物ネットワークと植物との  
ホロバイオームの理解と持続可能農業基盤の構築**

**熊本大学  
生物環境農学国際研究センター  
澤 進一郎**

## **ASPIREとは？**

国際共同研究を通じて我が国と欧米等科学技術先進国・地域のトップ研究者同士を結び付け国際頭脳循環を加速する。

海外と、最先端の研究開発につながるネットワークを構築しつつ、次世代のトップ研究者を育成する。

## ASPIRE 運営統括(PD)



宮野健次郎  
(NIMS名誉フェロー)

(PD)

AI・情報	バイオ	エネルギー	マテリアル	量子	半導体	通信
八木康史 大阪大学	竹山春子 早稲田大学	菅野了次 東京科学大学	相田卓三 理化学研究所	川上則雄 理化学研究所	天野英晴 東京大学	山中直明 慶應義塾大学

1件 5億円

2025年12月から2031年3月まで  
(5年4ヶ月間)

(PD)

AI・情報	バイオ	エネルギー	マテリアル	量子	半導体	通信
八木康史 大阪大学	竹山春子 早稲田大学	菅野了次 東京科学大学	相田卓三 理化学研究所	川上則雄 理化学研究所	天野英晴 東京大学	山中直明 慶應義塾大学

# 1件 5億円 2025年12月から2031年3月まで (5年4ヶ月間)

(PD)



- **澤 進一郎 (熊本大)**  
線虫を含む土壤微生物ネットワークと  
植物とのホロバイオームの理解と持続  
可能農業基盤の構築
- **川野 竜司 (東京農工大)**  
細胞膜のEngineering Biology
- **竹内 昌治 (東京大)**  
バイオハイブリッドロボティクスの国  
際ネットワーク強化

• 代表 澤 進一郎  
生物環境農学国際研究センター  
センター長 (常勤26名 内研究者24名)

• 相手国側代表者 Bruno Favery  
フランス INRAE, ソフィア農業研究所  
副部門長 (常勤 700名程度 内研究者200名)

微生物  
中野亮平  
(北大)

前田  
(北大)  
島崎  
(北大)  
荒木  
(滋賀県立大)  
川原田  
(岩手)  
杉山  
(京大)  
畫間  
(東大)  
市橋  
(理研)

ドイツ  
• Dagdas  
• Garrido-Oter  
• Andersen  
オランダ  
• Pieterse  
• Wippllel

線虫  
澤進一郎  
(熊大)

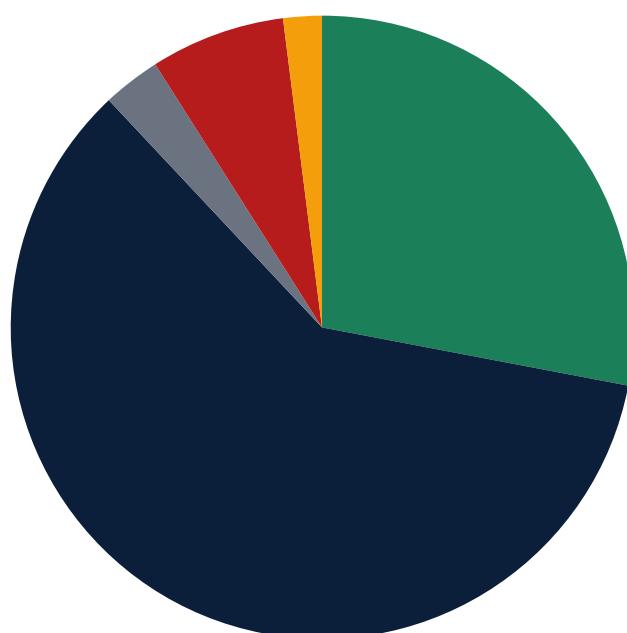
檜垣  
(熊大)  
中上  
(熊大)  
Tsai  
(熊大)  
水谷  
(神戸大)  
秋山 (峰)  
(神戸大)  
石崎  
(神戸大)  
大津  
(奈良先端)  
新屋  
(明治大)  
中野  
(京都大)

フランス  
• Favery  
• Zurletto  
• Jaubert  
• Quentin  
• Mantelin  
スペイン  
• Escobar  
アメリカ  
• Liu  
• Siddique  
オーストラリア  
• Bowman  
スイス  
• Hardtke  
• 清水  
カナダ  
• 吉岡

ホルモン  
瀬尾光範  
(琉大)

渡邊  
(安田女子大)  
岡本  
(理研)  
米山  
(埼玉大)  
西田  
(佐賀大)  
吉本  
(明治大)  
鈴木  
(東京工科大)  
フランス  
• Dubos  
• North  
カナダ  
• 南原

## 研究費の使い道



- 人件費
- 旅費・滞在費
- 会議費
- 共同研究実施費
- その他

- 人件費；人に投資  
若手研究者の雇用促進
- 旅費・滞在費；若手の経験  
海外留学・外国人受入促進

若手の大学院生・博士研究員  
(42歳以下、博士号取得後15年以内)  
による国際共同研究の促進。

**具体的には**

- コートダジュール大学とのDDP
- 様々な海外大学への半年～1年間の留学
- 海外大学からの留学生受入
  
- 国際シンポジウムの開催による  
研究ネットワークの構築・拡大

等

**今年度のイベント**

- 11月28日；国内全体会議
- 12月15 - 19日；コートダジュール大学でWinter School
- 12月 ローザンヌ大学（スイス）での若手研究者交流打合せ
- 1月 INRAE（仏）でのキックオフミーティング  
(日本から14人参加)
- 1月 モンペリエ大学・コートダジュール大学・INRAEベルサイユ  
での若手研究者交流打合せ
- 2月 ケンブリッジ大学での若手研究者交流打合せ
- 3月 アムステルダム大（蘭）、ユトレヒト大（蘭）MPMI（独）、  
ハイデルベルク大（独）での若手研究者交流打合せ

出発日 Date of Departure	帰国日 Date of Return	滞在期間（月） Term	氏名 (1名ごとに記載) Last Name & First Name	所属機関 Affiliation	役職 Position	性別 Gender	若手 ECR ○	用務先（国名、都市名、研究機関名等） Exchange Destination (Country,City,Research Organization etc)
2026/3/1	2026/3/31	約1ヶ月	鈴木 洋弥	東京工科大学	助教	F	○	フランス、ベルサイユ、INRAe
2026/3/1	2026/3/31	約1ヶ月	中野 亮平	北海道大学	教授	M	○	ドイツ、ケルン、Max Planck Institute for Plant Breeding Research
2026/3/1	2026/3/31	約1ヶ月	稻垣 裕介	北海道大学	M1	M	○	ドイツ、ユトレヒト、Utrecht University
2026/3/15	2026/3/25	約10日間	澤 進一郎	熊本大学	教授	M		ドイツ、ハイデルベルク、Heidelberg University
2026/3/1	2026/5/30	約3ヶ月	上園 駿	明治大学	M1	M	○	フランス、ニース、INRAe
2026/5/15	2026/11/15	約6ヶ月	亀田 優悟	熊本大学	M2	M	○	カナダ、トロント、トロント大学
2026/5/15	2026/11/15	約6ヶ月	徳永 圭太	熊本大学	M1	M	○	カナダ、トロント、トロント大学
2026/5/15	2026/9/15	約2ヶ月	Tsai Yi-Lun	熊本大学	助教	M	○	カナダ、トロント、トロント大学
2026/5/20	2026/11/20	約6ヶ月	梶原 大輝	熊本大学	D3	M	○	スイス、ローベンヌ、ローベンヌ大学
2026/6/1	2026/6/30	約1ヶ月	澤 進一郎	熊本大学	教授	M		アメリカ、UC Davis、カナダ、トロント大学
2026/6/1	2026/8/31	約3ヶ月	廉 明徳	広島大学	M1	M	○	オランダ、ワーゲンブリュン、ワーゲンブリュン大学
2026/7/1	2026/8/31	約2ヶ月	山田 大綱	広島大学	特任助教	M	○	フランス、モンペリエ、INRAe
2026/7/15	2026/7/22	約1週間	中野 亮平	北海道大学	教授	M	○	フランス、アンジエ、INRAe
2026/7/15	2026/9/15	約2ヶ月	ロドリゴ・ハセ 真理奈	北海道大学	M1	F	○	フランス、アンジエ、INRAe
2026/8/1	2026/9/30	約2ヶ月	瀬田 京介	明治大学	D3	M	○	ドイツ、ミュンスター、ミュンスター大学
2026/8/1	2026/9/30	約2ヶ月	鈴木 洋弥	東京工科大学	助教	F	○	フランス、ベルサイユ、INRAe
2026/8/15	2026/8/31	約2週間	古川 沙央里	京都大学	研究員	F	○	韓国、ソチョン、国立生態院
2026/8/15	2027/2/15	約6ヶ月	亀田 淳生	熊本大学	M1	M	○	フランス、ニース、INRAe
2026/8/15	2026/10/15	約2ヶ月	中上 知	熊本大学	准教授	M	○	フランス、ニース、INRAe
2026/10/1	2027/1/1	約3ヶ月	橋 紗希	神戸大学	M2	F	○	フランス、ローヌ、ローヌ大学
2026/10/1	2027/1/1	約3ヶ月	中村 幸誠	神戸大学	M2	M	○	フランス、ローヌ、ローヌ大学
2026/10/1	2026/10/14	約2週間	秋山 遼太	神戸大学	助教	M	○	オランダ、アムステルダム、アムステルダム大学
2026/10/1	2026/10/14	約2週間	須澤 尚太	神戸大学	D2	M	○	オランダ、アムステルダム、アムステルダム大学
2026/10/16	2026/11/15	約1ヶ月	佐藤 友昭	北海道大学	D2	M	○	スイス、バーゼル、バーゼル大学
2026/12/16	2026/12/30	約2週間	澤 進一郎	熊本大学	教授	M		オーストラリア、メリボルン、マナッショ大学
2026/12/16	2026/12/30	約2週間	石崎 公庸	神戸大学	教授	M		オーストラリア、メリボルン、マナッショ大学

## 期待される成果 ①

### 若手研究者の長期派遣計画について、具体的な派遣規模や期間

**年間規模と期間 期間を通じて半年以上派遣；30-35名程度**

博士課程学生：10-20名程度

ポスドク： 10名程度

若手教員： 10名程度

毎年 4～5名程度を3ヶ月～1年派遣

## 期待される成果 ②

### ネットワーク形成について、具体的な目標値

#### ・ ネットワーク形成

#### Global Holobiont Research Consortium (GHRC)設立 (熊大農学センター内に事務局設置)

- 機関間の連携協定 5 件以上の締結
- 8か国、10機関以上をメンバー化
- 国際共同研究のプロジェクト数；30以上
- 5回以上の国際会議開催

## 期待される成果 ③

### 本研究の成果を社会実装につなげるための構想

#### ・ 短期的 (ASPIRE期間中)

- 発見した分子メカニズムや微生物資源を農業分野のバイオ資材開発候補として特許化・技術移転準備  
(例；特許申請 6 件；国際特許申請 3 件 等)
- 共同研究先のフランスINRAEや農研機構等と連携し、圃場レベルで実証試験

#### ・ 中期的 (5~10年)

- 企業（農薬・種苗・資材メーカー）との共同開発契約  
(共同研究進行中4件；ベンチャー設立 (現在 2 社))
- 農業現場での持続可能な病害抑制技術として普及  
(熊本県等との連携；農業普及員等)

#### ・ 長期的 (10年以上)

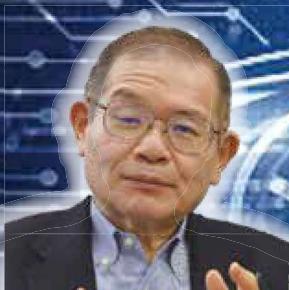
- 産業連携拠点として農学センター内にGHRC部門を設立・運営
- 新興国農業にも展開 (ベンチャー；ALCA, JICA, JIRCAS等)



**ASPIRE (JST;科学技術振興機構)**  
-先端国際共同研究推進事業-  
「TOPのためのASPIRE」  
採択のご報告

ご清聴ありがとうございました

# 一般社団法人 日本 OSAT 連合会 熊本事務所開設記念フォーラム



熊本大学  
卓越教授  
若林秀樹氏



経済産業省  
大臣官房審議官  
西川和見氏



株式会社 デンソー  
ミッションエグゼクティブ  
加藤良文氏



大阪大学  
特任教授  
菅沼克昭氏



加藤電器製作所  
代表取締役社長  
加藤修央氏

基調講演 I 株式会社 デンソー ミッションエグゼクティブ 加藤良文氏

基調講演 II 経済産業省 大臣官房審議官 西川和見氏

基調講演 III 大阪大学 特任教授 菅沼克昭氏

## パネルディスカッション 「半導体の未来を支える OSAT — 技術・連携・人材の新時代(仮)」

モデレータ：熊本大学 卓越教授 若林秀樹氏

パネラー：株式会社 デンソー ミッションエグゼクティブ 加藤良文氏

経済産業省 大臣官房審議官 西川和見氏

大阪大学 特任教授 菅沼克昭氏

加藤電器製作所 代表取締役社長 加藤修央氏

日時

2026年3月9日月 13:00 - 17:20

場所

熊本大学 D-スクエア 1F

形式

基調講演 + パネルディスカッション

定員

会場100名 + オンライン(サテライト配信)

参加費

無料

一交流会一

17:50-19:20

会場

熊本大学内 FORICO

参加費

3,000円

主催

一般社団法人 日本 OSAT 連合会 (J-OSAT)

共催

熊本大学

後援

JEITA、JPCA

お申込先

E-mail : [j-osat-admin@j-osat.org](mailto:j-osat-admin@j-osat.org)

会社名、参加人数、参加者名、交流会参加人数を記入し提出してください。



令和8年2月4日開催  
熊本大学定例学長記者懇談会 報告2

# 明治の 地質学掛図 と 描かれている 化石



2026 2.13<sup>FRI</sup> - 2.26<sup>THU</sup>

蔦屋書店 熊本三年坂 (地下1階 イベントスペース)

## TALK EVENT

2.21<sup>SAT</sup>

「掛図と化石でひも解く  
古代生物の世界」

14:00-15:00

SPEAKER 小松 俊文 教授

熊本大学大学院先端科学研究部(理学系)

要申込  
参加無料

定員 30名(先着順)

※定員に空きがある場合には、当日参加も受け付けます。

申込方法 QRコードまたはお電話にて  
お申し込みください。



小松 俊文



熊本大学×ニユコ・ワン株式会社共同企画  
熊本大学キャンパスミュージアム推進機構

申し込み・問い合わせ先

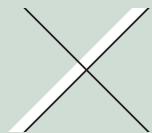
熊本大学総務部総務課広報戦略室  
TEL:096-342-3269



## Patrick Lafcadio Hearn

ラフカディオ・

ハーン

雪おんな  
清和文楽熊本時代に誕生した  
一雄を囲むハーンとセツ  
(小泉八雲記念館提供)2026 3.29<sup>SUN</sup> 10:00-12:30  
(9:30 開場)会場 熊本大学工学部百周年記念館  
[黒髪南地区]講演 小泉八雲記念館館長 小泉凡 氏  
「現代によみがえる小泉八雲とセツ、そして怪談」

公演 清和文楽「雪おんな」

参加  
無料定員  
200名

要申込・先着順 →



登録サイト

KWAIDAN:  
YUKI-ONNA

# ラフカディオ・ハーン

小泉八雲 X 雪おんな

## 清和文楽

ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)は、島根県松江から1891年に第五高等学校(熊大の前身)に赴任してきました。長男一雄が生まれたのも熊本であり、文筆家としても「私の文学修行の中で最も意義ある3年間であった」と後に振り返っています。今でいう国際結婚をした妻セツとの、文化や価値観の異なる者同士が互いを尊重しながら理解し合う姿や、発信された文化資源や精神性の高さは今の時代にも通じる普遍的なものです。また、八雲の怪談「雪おんな」を熊本が誇る清和文楽でぜひお楽しみください。

参加無料 | 定員200名

登録申込み 事前参加登録が必要です！

下記URLまたは、QRコードよりお申込みください。

<https://forms.gle/JTVmLpp3U7sHqrdaA>

 [登録サイトへ](#)



登録サイト

2026 3.29<sup>SUN</sup>

### Schedule

- 9:30 開場
- 10:00 開会挨拶 小川久雄(熊本大学長)
- 10:10 [講演] 小泉八雲記念館館長 小泉凡氏  
「現代によみがえる小泉八雲とセツ、そして怪談」
- 11:30 [公演] 清和文楽「雪おんな」
- 12:30 閉会



Bon  
KOIZUMI

### 小泉 凡氏

1961年東京生まれ。成城大学・同大学院で民俗学を専攻後、1987年に松江へ赴任。妖怪、怪談を切り口に、文化資源を発掘し観光・文化創造に生かす実践活動や、小泉八雲の「オープン・マインド」を社会に活かすプロジェクトを世界のゆかりの地で展開する。2022年度全国日本学士会アカデミア賞を受賞。

小泉八雲記念館館長・焼津小泉八雲記念館名誉館長・島根県立大学短期大学部名誉教授。

主著に『民俗学者・小泉八雲』(恒文社)、『怪談四代記一八雲のいたずら』(講談社)、『小泉八雲と妖怪』(玉川大学出版)、『セツと八雲』(朝日新書)ほか。

小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)曾孫、日本ペンクラブ会員。

## 清和文楽とは

「文楽」とは、一般に日本の伝統芸能である人形劇の人形浄瑠璃を指す代名詞です

人形浄瑠璃「文楽」は、日本を代表する伝統芸能の一つで、太夫・三味線・人形が一体となった総合芸術です。



熊本大学教育学部3年 備瀬生貴

## 清和文楽 「雪おんな」

【原作】小泉八雲 【脚色】半藤一利 【演技指導】豊竹嶋太夫 【作曲】鶴澤清介



熊本大学黒髪南地区 熊本中央区黒髪2-39-1  
※公共交通機関をご利用ください。



熊本大学キャンパスミュージアム推進機構  
〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39番1号  
TEL: 096-342-2864 (社会共創推進課) TEL: 096-342-2047  
e-mail: museum@jimu.kumamoto-u.ac.jp  
<https://museum.kumamoto-u.ac.jp>



ホームページ